

令和7年度 府中市立本宿小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・促音、拗音、助詞「は」「を」「へ」を適切に使い、書くことに課題がある。 ・「おとうさん」「おねえさん」など、話す音のま「おとおさん」「おねいさん」と書いてしまう児童が見られる。 ・音読をすることに課題が見られる。 ・文章を読んで内容を理解することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動を充実させ、語彙力を高めていく。【発見・表現・決定】 ・音読をする機会を増やし、友達の良さを伝え合う指導をする。【対話・表現】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・文章から立式・答えを導き出すことに課題が見られる。 ・一位数と一位数の計算において、解き方は理解しているが、答えを正確に求めることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の基礎基本の時間や家庭学習でプリントやドリルを使って既習事項を反復練習し、理解の定着を図る。【発見・決定】 ・文章題を解くときに、足し算や引き算と分かるキーワードに気付かせたり、図に表したりして、確実に立式できるようにする。【表現】 ・なぜその式や答えになったのか、友達に説明することができるようになる。【表現・対話】 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・経験及び体験不足によって、遊び方や友達との関り方に課題が見られる。 ・様々な視点で観察をする力を身に付けさせることが課題である。 ・友達のよさを伝え合う力を更に高められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話を通して、友達の良さに気付いたり、自分の考えを深めたりすることで、課題に応じた方法を自分で選択することができる。【発見・対話・表現・決定】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を感じ取りながら、その音楽に固有の雰囲気や表情、味わいなどの表現を作り出すことに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想の感じ取りを深めたり、必要な技能を身に付けたりしながら、感じ取ったことを基にいろいろな表現の仕方を体験するようにして、器楽表現を工夫する楽しさを味わい、思いを膨らませるように指導する。【表現】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組む児童がいる中で、豊かに発想し、作品をつくることに苦労している児童も見られる。 ・絵を描くことに対して苦手意識をもつ児童が見られる。 ・のりやはさみなど、画材や道具の使い方に慣れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業以外でも、様々な道具に触れ、道具の扱いに慣れるように指導していく。【決定】 ・友達の良さを見つけ、その良さを自分に取り入れて表現できるように指導する。【発見・対話・表現】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・経験及び体験不足により、基本的な動きが身につけていない児童がいる。 ・体力不足の児童が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間5分間走る活動など、自分にあった活動を取り入れ、体力づくりに努める。【決定】 ・友達の良さを見つけたり、課題について話し合ったりしながら、自分に合った動きを取り入れて、課題に挑戦する力をつける。【発見・対話・表現・決定】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立本宿小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや思いを、適切な言葉で表現することが苦手な児童がいる。 これまでに習った漢字を正しく使って文章を書くことが苦手な児童が多い。 書かれている文章から、内容を適切に読み取ったり、想像したりすることが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動を充実させ、様々なジャンルの文章に触れる機会を設けることで、語彙力を高めると共に、文章から内容を適切に読み取ったり、場面や心情を豊かに想像したりする力を養う。 【表現・発見】 読んだ本の感想交流や、読み取った内容についての意見交流をする機会を適宜設け、自分の考えや思いを表現できるようにしていく。 【発見・表現・対話】 日記を書く活動を適宜取り入れ、短い文章の中で自分の体験や思いを表現することに慣れさせていく。また、その中で漢字を適切に使えるように指導していく。 【発見・表現・決定】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 文章から問題場면을適切に読み取り、立式することが苦手な児童がいる。 cmやmm、lやdlといった単位を正しく理解できていない児童がいる。 位取りの仕組みを正しく理解し、計算に生かすことができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を生活場面と結び付け、問題場面や単位換算を身近なものとして想像しやすくすることで、どんな計算になるのか、どのような単位がふさわしいのかを自分で考えられるような授業を展開する。 【発見・表現・決定】 ノートの書き方に工夫し、自分の考え方が分かりやすく書き表せるようにすると共に、それを伝え合うことで多様な考え方に触れ、正しい理解に結び付けられるようにする。 【発見・表現・決定・対話】 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の栽培や虫の飼育をして気付いたことを絵や文を工夫して観察カードに記録するが、記録の仕方や表現の工夫ができるようになることが課題である。 学校探検で1年生のために様々な企画を考え、学校のことを楽しく知ってもらえるようにした。楽しくできるのはいいが、目的をあまり意識しないまま活動している児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察カードでは、記録やまとめの視点を明確にし、考えを整理したり、分かりやすく伝えたりすることができるようにする。【表現】 記録やまとめの視点を明確にし、ワークシートやICT機器を活用し、考えを整理したり分かりやすく伝えたりすることができるようにする。 【表現】 2学期にグループで町探検を計画し、課題をもって調べたり、地域の人と交流したりして分かったことを伝え合い、地域の良さを感じて町に親しみをもてるようにする。 【発見・決定・対話】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> リズムの模倣などの全体活動は、集中して取り組むことが出来ているが、グループ活動になると自分勝手になる児童がいる。 鍵盤ハーモニカの学習では、運指を正しく理解できず苦手意識をもっている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単なリズムの繰り返し等に楽器を用いることで、達成感を味わい、楽しく活動できるようにする。【表現】 鍵盤ハーモニカの指導は、運指の全体指導、個別指導を随時行うことで、基礎的な力を育成していく。【決定】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 筆やクレパスなどの道具を使った制作活動に意欲的に取り組めない児童がいる。 作品のよさや面白さなど、感じたことを言葉で伝えることが苦手な児童もいる。 はさみ、のりの基本的な扱い方にばらつきがある。 製作活動に取り組む際に集中力が持たず、表現したいことを追求する意識が低下して児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 道具や用具の扱い方の基礎を指導することで、イメージを形に表す楽しさを、多くの児童が味わえるようにする。子供たちが自由に表現できるように、時間、空間を確保する。様々な表現方法を提示し、試行錯誤できるようにする。自分のペースで作品を完成できるように個に応じた支援を行う。【表現・決定】 ペアやグループ鑑賞の機会を多く設け、発想や材料の組み合わせなど互いの作品の面白さを見付けて伝え合えるようにする。【対話・発見】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 個人の能力差が大きい。 マット運動の前転や、鉄棒のぶら下がりなどの基本的な技能が身に付いていない児童が多くみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に運動の経験不足なので、休み時間などを活用し、遊びを通して様々な運動を経験させていくようにする。【発見・決定】 友達と運動を見合う場面を取り入れ、友達のよさを真似できるようにする。 【発見・表現・対話】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立本宿小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手や目的を意識して、考えたことや伝えたいことを明確にして書くことが苦手な児童が多い。 ・ 既習の漢字を忘れていている児童がいる。反復して学習に取り組み、定着させることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今まで培ってきた授業構成から、「自分の考え」・「まとめ、ふりかえり」でしっかりと書かせる活動を繰り返し展開する。【表現】 ・ 継続的に漢字の指導を行う。自分の苦手な漢字を中心に練習するように指導し、間違いは丁寧に直させる。【決定】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを書いたり、説明したりすることに苦手意識をもつ児童もいる。 ・ 繰り上がり繰り下がりやわり算、文章問題などにおける誤答が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数のやり方（文章・図・イラスト等）を共有して自分の考えを書いたり、友達のよいところを真似したりしてできるようにする。【対話】 ・ 位ごとに色分けし、自分の考えが明確になるようにするとともに、確実に計算できるようにする。【表現】 ・ 解き終わったら、見直しを定着させる。【発見・表現】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習事項や生活体験から、学習内容を結び付けて考えられる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入時に生活体験と関連付けて、課題提示をしたり、体験学習を重視したりする。【発見】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料からの読み取りが苦手な児童が多く見られるため、予想や自分の考えを書くことが難しい。 ・ 資料から分かったことをもとに、考え、話し合う活動の際に、自分の考えが書けず、話し合い活動に主体的に取り組む児童が少なくない。 ・ 実際に歩いて、見たことや聞いたことを地図などの資料に関連付けすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料は表やグラフだけでなく、絵や写真から分かったことも含まれることを理解させ、様々な資料から考えさせるようにする。【決定】 ・ 児童がより身近に感じられるようにするために、実際の写真や映像などを効果的に活用する。 ・ 自分の考えが書けるよう、思考ツールを使ったり、ペアワークをしたりしながら、考えをまとめられるようにする。【対話】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・ リコーダーの学習に苦手意識をもつ児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リコーダーの指導は、運指の全体指導、個別指導を随時行うことで、基礎的な力を育成していく。【表現】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・ 材料や用具についての経験や技能を生かしたり、方法を組み合わせたり形をかえたりして工夫したりすることについて課題がある。 ・ 造形遊びをする活動で思い付くこと、考えることについて課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用具や材料の種類を増やし、使い方を確認しながら実演したり、掲示物で表示したりして学習を進められるようにする。【決定】 ・ 造形遊びの活動を増やし、主体的に活動できるよう、グループやペアでの活動を仕組む。【発見】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しんで取り組んだりコツを教え合ったりする児童がいる一方で、体力や運動能力に個人差があり苦手意識をもつ児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が楽しく運動できるように、実態に合わせて取り組みやすいものから提示し、様々な動きに慣れ親しめるようにする。【発見】 ・ 手本となるように動画を見せて、ポイントを押さえる。【対話】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立本宿小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いは頭の中にはあるが、友達に伝えたり、文章に分かりやすくまとめたりすることが苦手な児童が多い。 既習の漢字を使い、文を書くことが苦手である。また、反復して学習に取り組み、定着させることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く要点や視点を明確に示し、文でなくても短い言葉や単語をつなげて考えられるようにする。ペアやグループでの対話の機会を増やし、少人数での発表ができるようにする。 【表現・対話】 漢字の反復学習を繰り返し行い、間違えた字は丁寧に直しをする。【決定】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを書いたり、説明したりすることに苦手意識をもつ児童がいる。 問題場面に即した演算決定が苦手である 繰り上がりや繰り下がり、かけ算やわり算など、基礎的基本的な計算技能が身に付いていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 図等を活用して自分の考えを書いたり、友達の考えをヒントにして考えたりできるようにする。【対話・表現】 問題の全体構成や数量関係を、表や数直線などを用いて捉えやすくし、判断できるようにする。【発見・決定】 九九の学習などを継続的にを行い、計算の手順を正しく理解して習熟できるようにする。 【決定・表現】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活での体験と、学習内容を結び付けて考えられる児童が少ない。 実験の結果から考察することができる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 動画や写真を活用し、興味・関心を高めたり、考察を深めたりできるようにする。【発見】 実験の結果を表などにしてまとめたり考察の書き方を押さえたりして、実験結果から分かったことを書けるようにする。【表現】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料から自分で読み取ったり、グラフや表等、複数の資料を関連付けて情報を読み取ったりする力に課題がある。 基本的な用語を理解するのが難しい児童が一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料読み取りの活動の際、読み取りの視点や別の資料と繋げて考えるための視点を子供たちから引き出し、必要に応じてヒントを出す。また、ICTを活用し、写真や動画などの資料から用語と意味の一致を捉えられるようにする。 【発見】 教科書等の資料から適切な言葉を見つけ出し、児童どうしで共有できるようにする。【対話】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 自分で考えたことを伝えたり、説明したりすることに苦手意識のある児童がいる。 授業に集中できず、表現することに抵抗があり、のびのびと演奏できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループで活動していく中で友達の考えを知り、考えを深めていくようにする。 【発見・対話】 音楽を形づくっている要素と特徴に気づき、対話していく中で理解を深め、表現につなげていく。【対話・表現】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 友達の作品の良さを感じ取り、自分の作品に生かすことが苦手な児童が多い。 自分の思いやイメージをしっかりもち、主体的に製作することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動、鑑賞活動等、友達と対話する機会を多く作る。【対話・発見】 自分のイメージに合った用具や材料を選んで絵や立体に表す活動を作る。【表現・決定】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 個人の運動能力の差が大きく、技術の習得にも大きな差が見られる。 課題を解決する場面で、伝え合おうとする児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> レベル別で、自分自身が達成できる課題から挑戦できるよう場の設定を工夫して、取り組めるようにする。【決定】 伝え合う内容の視点を与えて対話させたり、話型を提示したりして課題に沿った話し合いができるようにする。【対話】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立本宿小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を分かりやすくまとめることや自分の気持ちを文にまとめることが苦手な児童が多い。 既習の漢字を普段の生活から使うことや字形の整った漢字を書くが苦手な児童が多い。 語彙力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りを重ねながら、伝えたいことを分かりやすく書き表すことに慣れさせる。【表現】 自分が苦手な漢字を中心に反復練習に取り組む指導を行う。【決定】 個に応じた読書活動を推進する。【決定】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 中学年の学習内容の定着度の差が大きく、系統性を意識しながら復習することが必要である。 文章題の内容を読み取ったり、立式したりすることに課題のある児童がいる。 解き方や考え方などを説明する問題など、思考判断表現を問われる問題になると、正答率が下がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己選択自己決定で学習に取り組める環境を整え、個に応じながら、基礎学力の定着を図る。【決定】 文章題を解く際、数直線図や表を使って問題を正しく読み取り、立式を行うという過程を繰り返す。【表現】 自力解決と学び合いを一体化した学習展開にし、自分の考えや友達の考えを説明できるようにする。【表現】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 予想を確かめるためにどのような実験をすればよいか考えるのに課題のある児童がいる。 実験結果からわかることを考えたり、文章に表現したりするのに課題がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の調べたいことを明確にし、それらを調べるためにどのような条件制御を行えばよいか考えられるような指導を行う。【決定】 結果と考察の違いを改めて説明する。また、文の型を提示し、実験結果からわかることを書きやすくする。【表現】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 写真やグラフ等の資料から読み取る力に課題が見られる。 新出用語とその意味を理解するのに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真やグラフ等の資料からどんなことが分かるのか、個人・グループ・全体での資料の読み取りを取り入れる。【発見・対話】 教科書の言葉だけでなく、ICTを活用し、写真や動画からも用語と意味の一致を捉えられるようにし、理解を促す。【発見】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 明るく伸びのある声で歌える児童が多いが、全体をみて音楽を作り上げようとする力が弱い。 音楽を作り上げる要素に着目して工夫して演奏することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲想を感じ取り、どんな特徴があり、どう表現していきたいか対話していく中で、思いや意図をもって表現していく児童を目指す。【発見・対話・決定】 グループ活動を通して、工夫する点を話し合い、自分の思いや考えを持ち、表現できるようにする。【表現・対話】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 友達の作品の良さを感じ取り、自分の作品に生かすことが苦手な児童が多い。 自分の思いやイメージをしっかりと、積極的に絵や立体に表すことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動、鑑賞活動等、友達と対話する機会を多く作る。【対話・発見】 自分のイメージに合った用具や材料を選んで絵や立体に表す活動を作る。【表現・決定】 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験や興味によって進度、完成度に差が出るため、特に裁縫では個々の児童に応じた技能の支援が必要である。 課題への取りかかりは良いが、話をしっかりと聞いて自分の考えや感想を表現することに課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画の段階で、作業の手順のポイント・キーワードを示し、内容を確認する。【決定・発見】 話し合う内容を明確に示し、対話的な活動を進める。【対話】 表現活動においては、教科等を横断的にとらえ、既成事項を想起させながら、取り組めるようにする。【表現】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 個人の運動能力の差が大きく、技術の習得にも大きな開きが見られる。 自分やチームのことを客観的に見て、課題を見つけることができない。 課題を解決するために積極的にチームで話し合う力を更に伸ばしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> できる限り易しい教材を準備し、「できるかも」「やってみよう」という気持ちをもたせる。【決定】 単元計画を工夫し、課題を見つける時間やチームで話し合う時間を設定する。【決定】 お手本を提示したり、ICT機器を活用したりし、課題を発見し、解決できるようにする。【発見】 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 3.4年生で慣れ親しんできた表現を、やり取りの中で、自信をもって使える児童はまだ多くない。 学んだ語句を入れ替えて質問文を作るなど使い方に慣れている児童は一部に限られ、例示された会話表現の範囲でやり取りが終わってしまうことが多い。 これまでに学んだ表現を活用してやり取りす 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間、2文ダイアログの練習を取り入れ「できたこと」や「難しかったこと」に気付けるよう支援しながら、語句の入替えや応用練習を通して使える表現を少しずつ広げていく。【発見・表現】 スモールトークやペア活動の時間を確保し、学習している単元以外の表現を使う機会を設ける。やり取りテストを単元のみの内容にするのではなく、既習事項を活用するものにし、児童が自分のめあてに応じた練習の仕方やペースを工夫できるよう支援する。【対話・決定】 		

令和7年度 府中市立本宿小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

	<p>る場面では、決まったパターンに頼る傾向があり、表現の幅を広げていく力の育成が今後の課題となっている。</p>	<p>・既習表現の活用を意識付け、語句を入れ替えながらやり取りする練習を継続することで、表現の幅を広げるとともに、表現に対する気付きを次の学習へとつなげていく。</p>		
--	---	--	--	--

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立本宿小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを分かりやすく表現する力を更に高めたい。 筋道を立てて文章を書くことに苦手意識をもっている児童が多い。 目的に応じて、聞きたいことを相手から聞くための話題や質問内容の決め方について、理解を深める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを推敲する時間を確保する。また、友達と相互に伝え合う機会を多く設け、より良い表現方法を学ぶことができるようにする。 【発見・対話】 事実や根拠を明確にして意見を書く指導を教科等横断的に行う。【表現】 質問と回答のやり取りを続ける練習などをしながら、段階的に力を高める指導を行う。 【発見・対話】 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 答えを導き出す過程を説明することに大きな課題が見られる。 1つの解決方法で満足してしまい、多様な考えをすすんで導き出そうという粘り強さが足りない。 「だったら」「この場合は」と、学んだ知識・技能や数学的な見方・考え方を、生活や他の学習場面で生かそうとしている児童が少ない。 すすんで他者と関わり、自ら考えを広げたり深めたりしようとする児童を育てたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「どうしたら既習事項を使えるようになるか」を繰り返し問い、児童が自分で解決の見通しをもてるようにするとともに、答えを導き出す過程を説明する力を養う。【発見・表現】 解決に向かう時間を十分に確保し、「考え方はこれだけだね」等、多様な考えを引き出す発問を行う。【発見・対話】 毎時間や単元ごとの振り返りをする際に、「良いと思った考えとその理由」を視点で示し、知識・技能や数学的な見方・考え方を統合させることで、学んだことを児童が生活や他の学習場面などに生かせるようにする。【発見・決定】 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの事象や、経験の乏しさから予想を立てることが難しい児童がいる。 実験計画を立てる際に、実験の条件を自ら考えられない児童がほとんどである。 実験を意欲的に取り組む児童が多い。一方で実験の結果から「つまり何が言えるか」と、考察できる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し、画像や動画を見せて実体験がなくても児童が身近な事象として捉えられるようにする。【発見】 どのような条件制御を行えばよいか考えられるような指導を行う。【決定】 実験前に何を調べる実験かということをしっかりと児童とおさえる。また、課題について言えることを、他者と交流することで自身の考えを深められるようにする。繰り返し行い、自分自身で考察できるようになるようにする。 【対話・表現】 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 日本の国土や世界の地理・歴史資料の読み取る力に個人差がある。 社会的事象の相互の関連を理解するための知識の習熟にやや課題がある児童がいる。 前時からの学習事項が積み重ならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項や前時の学習を本時とつなげながら、ICTを活用し、写真や動画から社会的事象を身近なものとして捉えられるようする。【発見】 写真や資料の読み取り方を丁寧に押さえ、個人・グループ・全体での資料の読み取る学習を適宜取り入れる。【対話・決定・表現】 語句や内容にふれていくようにして、理解を促す。【表現】 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで主体的に授業を受けようとする態度を身に付ける必要がある児童がいる。 音楽に対する知識・関心が低く、表現することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動を取り入れ、自らの役割を認識し、協力して音楽を作り上げる中で、主体的に音楽を表現しようとする態度を養う 【発見・表現】 対話していく中で友達の考えや意見に耳を傾け、知識や曲に対する想いを深める。また様々な楽曲に触れていく中で、曲を要素や作曲者の想いを知り、自らの表現に生かしていく。 【対話・決定・表現】 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 友達の良さを感じ取り、自分の作品に生かすことが苦手の児童が多い。 自分の思いやイメージをしっかりともち、主体的に絵や立体に表すことが苦手の児童が多い。 見通しをもって計画的に活動を進めていくことに課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動、鑑賞活動等、友達と対話する機会を多く作る。【対話・発見】 自分のイメージに合った用具や材料を選んで絵や立体に表す活動を作る。【表現・決定】 振り返りの時間、また製作途中の作品を友達と見合う時間を作ることで、見通しをもって取り組めるようにする【対話・表現】 		

令和7年度 府中市立本宿小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・何度も繰り返し、触れ、親しむことによって技能習得、活用に意欲が持てている。その反面、苦手意識が強く表れている児童もいる。 ・日常生活の中から問題を見出し、課題を設定し、解決する力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けた技能を生かせる学習単元を設定し、学習に対する楽しさや活用する喜びを味わわせる。【発見】【表現】 ・自分の活動や作品をふり返り、改善できているところを賞賛し合う。【対話】 ・学習した内容を日常生活に反映させ、そこからさらに課題を見出していくことができる学習を浸透させていく。【決定】 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・技能の習得に大きな差が見られる。 ・自分からすすんで課題を発見し、解決へ向けて力を更に伸ばしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップを意識して単元を構成する。児童同士でお手伝いをしたり、交流をしたりする場面を設ける。【対話】 ・お手本を提示したり、ICTを活用したりして、友達と話し合いながら自分の課題を発見し、解決できるようにする。【発見・対話】 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習してきた表現を使うのに思い出しながらで時間がかかる児童もあり、語句の入れ替えによる質問文づくりや、即時的なやり取りへの自信は、児童によって差が見られる。 ・自分に合った学習の進め方や練習の方法を選ぶことが難しく、活動のゴールまでたどり着かない児童もいる。 ・英語を書く活動においては、語と語の間隔、大文字の使い方など、基本的な書き方のルールがまだ十分に身につけていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間のように、2文ダイアログの練習を通して、自分が使える表現・すぐに思い出すができない表現に気付けるよう支援し、語句の入れ替えにも対応できるよう、繰り返しのやり取りを通じて技能を育て、表現力を育てていく。【発見・表現】 ・ペアのやり取り時間を継続的に設定する。児童が自分の習熟状況に応じた練習方法やめあてを自ら考えられるように働きかけていく。【対話・決定】 ・書く活動では、2文ダイアログをもとに、伝えたい内容を選んで書くことに重点を置く。基本的な書き方のルールについても、日々の指導の中で繰り返し示し、定着を図るようにしていく。【表現】 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。